

【平成28年度調査研究発表会プロジェクト研究の発表】

研究主題

「みんなで取り組み、学び合う授業研究」の進め方Ⅱ  
 ー授業力向上を図るワークショップ型研修を通してー

鹿児島県総合教育センター



1

授業研究の活性化

2

発表内容

- I 研究のこれまでの経過
- II 授業研究サポート事業Ⅱの取組
- III 授業研究サイクル改善の三つの取組と実践校の事例
- IV 授業研究実践校の事例発表
- V 研究の成果と課題

3



ワークショップ型授業検討会の基本的な流れ

1 進め方の説明

2 授業意図等の説明

3 グループ検討

4 グループ発表

5 改善策等の共有化

改善策の焦点化

改善策の具体化と共通理解

6 指導助言

パターン化されたワークショップ型で研修をやっていると内容に深まりが感じられない。

意見の言いっ放しになってしまい、日常の授業とつながりが感じられない。

意見はたくさん出るようになったけどまとまらない。

5

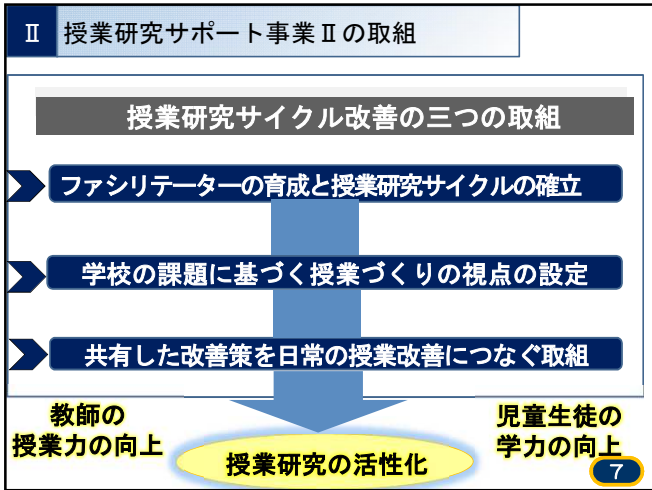
II 授業研究サポート事業Ⅱの取組

「みんなで取り組み、学び合う授業研究」の進め方Ⅱ  
 ー授業力向上を図るワークショップ型研修を通してー

研究のねらい

ワークショップ型研修を活用した授業研究の方法面に加え、学校のニーズに応じた「授業づくりの視点」を取り入れた内容面から改善を図り、授業力の向上や、児童生徒の学力向上に資する。


6



III 授業研究サイクル改善の三つの取組と実践校の事例(1)

1 ファシリテーターの育成と授業研究サイクルの確立

授業研究サイクルにおいて活発な意見交換を促し、多様な意見を引き出しながら、意見を整理しまとめる促進役



一人の上手なファシリテーターより、教職員みんながファシリテーターに


8



実践校の事例(ファシリテーターの育成と授業研究サイクルの確立)

南九州市立霜出小学校

全職員がファシリテーターを経験し、模擬授業や指導案検討を含む授業研究サイクルを確立して、改善策を共有する。



全職員がファシリテーター

模擬授業による検討会


改善策の共有化

10

実践校の事例(ファシリテーターの育成と授業研究サイクルの確立)

鹿児島県立指宿養護学校

ファシリテーターの役割を全員で事前研修し、年間を通じて、経験者、中堅教員、若手教員と段階的、計画的に育成する。



ファシリテーターに関する事前研修

経験者から中堅教員・若手教員につなぐ

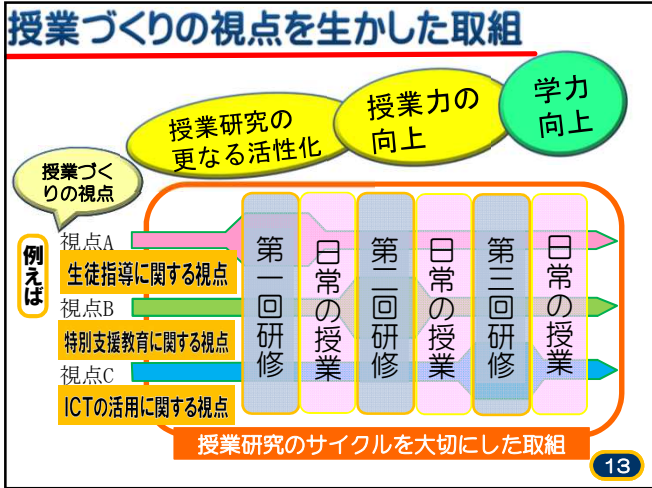
11

III 授業研究サイクル改善の三つの取組と実践校の事例(2)

2 学校の課題に基づく授業づくりの視点の設定

- 視点A 生徒指導に関する視点  
児童生徒の自己指導能力を育成するための授業づくりの在り方
- 視点B 特別支援教育に関する視点  
児童生徒の多様性に応え、全ての児童生徒にとって分かりやすい授業の工夫
- 視点C ICTの活用に関する視点  
授業の目的を達成し、児童生徒の情報活用能力を育成するためのICT活用
- 視点D 「判断基準」に基づく授業づくりに関する視点  
思考力・判断力・表現力に関わる目標の達成状況を的確に見取る「判断基準」を設定した授業構想
- 視点E その他、学校のニーズに応じた視点

12



### 実践校の事例(授業づくりの視点を生かす)

鹿児島県立吹上高等学校

7 本時の学習計画 (5/10)

- 本時の目標
  - 顧客サービスの立ち回りに関心をもち主体的に鑑賞・表現活動を行う。
  - 日らの課題を見つけ工夫しながら、言葉・理解を深める。
- 準備するもの
  - 生徒・教科書、ファイル、資源用具、筆記用具
  - 指導者・教科表、ワークシート、プロジェクター、iPad、Aero
- 授業展開
  - ※視点B→特別支援教育に関する取組
  - ※視点C→ICT活用

授業づくりの視点を位置付けた学習指導案

授業づくりの視点を学習指導案にも明確に位置付けて、授業研究に生かす。

14

### 実践校の事例(授業づくりの視点を生かす)

霧島市立国分南中学校

授業づくりの視点に基づき、全職員が授業を参観し、共有した改善策を、全ての教科等の授業に取り入れている。

視点に基づく授業参観・授業検討

共通実践事項の設定

グループの改善策の共有

ココがポイント

15



### 実践校の事例(改善策を日常の授業改善につなぐ)

いちき串木野市立串木野西中学校

授業づくりの視点から各教科で改善策を考える。

視点に基づく取組可能な改善策

視点	取組	改善策
視点3 科目	ICTの活用と振書は適切に行っているか	目的を明確にした学習形態の工夫
担当教科の成果		
担当教科の課題		
担当教科の具体的な改善策		

自分の担当教科に置き換えて改善策を考える。

17

### 実践校の事例(改善策を日常の授業改善につなぐ)

いちき串木野市立串木野西中学校

共通実践事項を職員室に掲示する。

共有した改善策の意識の継続

18

IV 授業研究実践校の事例発表

次は 事例発表です。

【事例発表校】  
垂水市立垂水小学校  
【発表者】  
教諭 寺倉 邦明

19

事例発表

「みんなで取り組み、学び合う授業研究」の進め方Ⅱ

児童数 426人  
学級数 16  
教職員数 34人



垂水市立 垂水小学校

20

事例発表 授業研究の課題

- ・ 具体的な授業のイメージがつかめない
- ・ 指導案検討に深まりがない



問題点や改善策を明確にしたい

21

事例発表 授業研究の課題

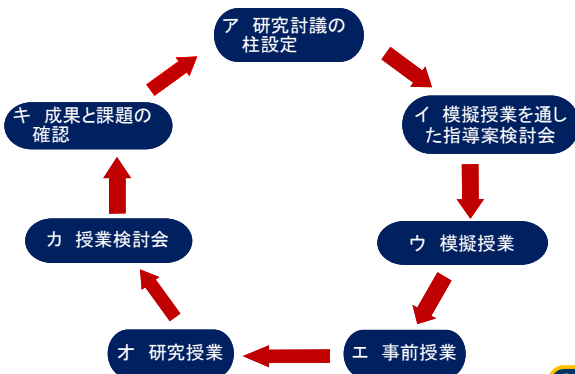
発言者が偏りがち



全員が参加し、話し合いの内容を共有して日常の指導改善に役立てたい

22

事例発表 授業研究の取組の実際 授業研究サイクルの確立



23

平成27・28年度  
県総合教育センター授業研究サポート事業Ⅱ

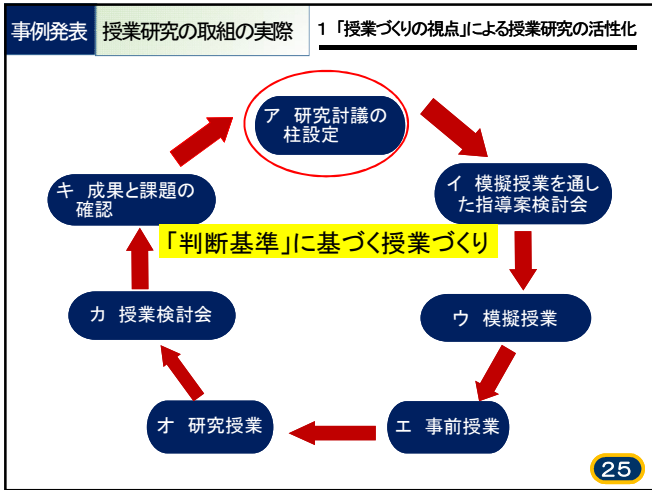
授業研究の改善点



授業研究サイクルの確立

- 1 「授業づくりの視点」による授業研究の活性化
  - ・ 「判断基準」に基づく授業づくりに関する視点
  - ・ 特別支援教育に関する視点
- 2 模擬授業
- 3 ワークショップ型授業検討会と改善策の共有

24



事例発表 授業研究の取組の実際 1 「授業づくりの視点」による授業研究の活性化

平成27・28年度  
大隅地区研究協力校「算数科」

〈研究主題〉

すべての児童が  
「分かる喜び」「できる楽しさ」を  
実感できる授業づくり  
～思考力・判断力・表現力を育む算数科の指導～

26

事例発表 授業研究の取組の実際 1 「授業づくりの視点」による授業研究の活性化

垂水小学校 「習得型」授業モデル

【「習得型」の授業とは】  
知識・技能を習得すること、定着を図ることに重点を置いた授業

練習問題の時間を15分確保するため、教えるべきところは教えて効率化を図り、必要な要点を押さえた交流をさせる。

27

事例発表 授業研究の取組の実際 1 「授業づくりの視点」による授業研究の活性化

垂水小学校 「活应用型」授業モデル

【「活应用型」の授業とは】  
習得した知識・技能を活用し、思考力・表現力を育む授業

全体交流の時間を15分確保、練習問題は、類似の問題を1問用意し、「できた」実感を味わわせる。

「活应用型」の授業で「判断基準」を設定

28

事例発表 授業研究の取組の実際 1 「授業づくりの視点」による授業研究の活性化

第6学年 算数科学習指導案

指導案の単元指導計画に「活应用型」「習得型」を明記

単元名	単元指導計画(全8時間)	授業展開
速さ	1 4人の子どもの走る速さを調べ、速さは何と何に関係しているのかを考える。 時間か道のりのどちらかをそろえたと速さを比べることができること、気づき、比べる。 1秒間あたりの道のり、1mあたりの時間を求めて速さを比べる。 (速さ) = (道のり) ÷ (時間) で表されることを理解する。	活应用型
	2 時速、分速、秒速について知り、公式を適用して、速さを比べる。	習得型
	3 時速と分速、秒速の関係について考える。 同じ速さのもの、時速や分速や秒速で表す。	習得型
	4 50mを何秒で歩くかを実際に調べてみる。(何回か調べて平均する。) 早く速さを秒速、分速、時速で求める。	習得型
	5 図や表に表して、道のりや時間を考える。 時間が2倍、3倍になったとき、道のりの変わり方を調べ、道のりの求め方を考える。 速さと道のりが分かっている場合の時間の求め方を、道のりを求める式から考える。	活应用型
	6 図や表を見て、かかる時間を求める。 提示された条件について、速さを適用して考える。	活应用型
	7 既習事項の理解を深める。	習得型
	8 既習事項の確かめをする。	習得型

29

事例発表 授業研究の取組の実際 1 「授業づくりの視点」による授業研究の活性化

単元指導計画に「判断基準」を明記

3 本単元における活应用型授業の判断基準

第1時	【判断基準A】判断基準Bの両方の考え方から一般的にはアの時間をそろえて求める方法がよいと考えることができる。 【判断基準B】ア 速さを時間をそろえて、1秒間あたり何m走ったかで比べることができる。 イ 速さを道のりをそろえて、1mあたり何秒かかったかで比べることができる。
第5時	【判断基準A】判断基準Bの中で式以外にも線分図や表を使って求めることができる。 【判断基準B】ア 道のりや時間を計算で求めることができる。 イ 道のりや時間を線分図を使って求めることができる。
第6時	【判断基準A】判断基準Bの両方の条件から高速道路を使う理由を説明することができる。 【判断基準B】ア 高速道路を使うかどうか条件②の時間について考えることができる。 イ 高速道路を使うかどうか条件③の料金について考えることができる。

「活应用型」の授業に「判断基準」を設定

30

「特別支援教育」に関する視点を生かす

すっきりとした前面掲示



学習過程の明示

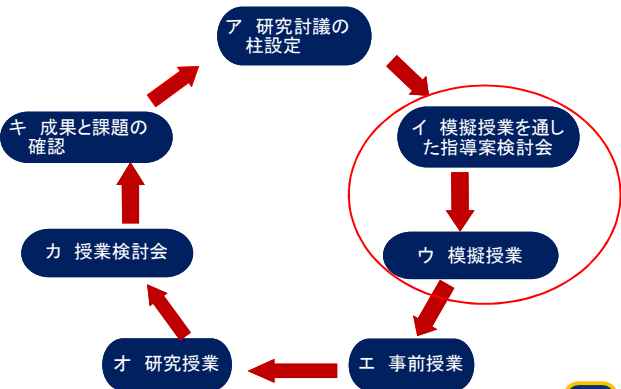


意図的な座席配置

「特別支援教育」に関する視点を生かす

教師の話し方、発問や指示	日常	本時
説明や指示を簡潔にしたり、抽象的な言葉を少なくしたりして、分かりやすく話している。(簡潔な表現・具体的な言葉)		
肯定的で具体的な指示をすることで、行動の内容を分かりやすく伝えている。		
<b>話し方や発問、指示の出し方を見直す</b> きなど)		
ことばによる説明や指示だけでなく、視覚的な情報も併せて提示している。(図、写真・絵カード、文字カード等)		
子どもたちの発言や取り組みを肯定的に受け入れ、主体的・意欲的な授業への取り組みを促している。		
適宜、発問や指名をすることで、子どもたちに適度な緊張感をもたせている。		

【授業におけるユニバーサルデザイン チェックリスト】



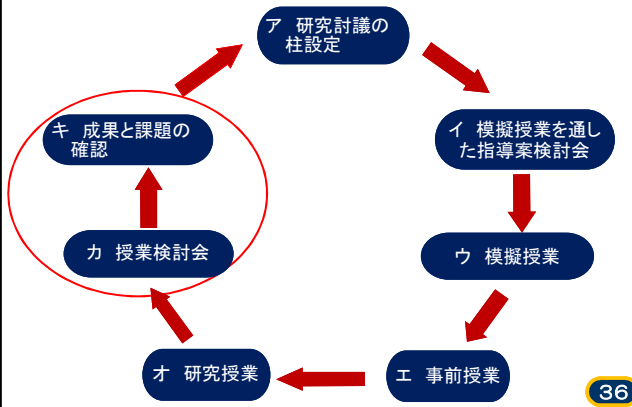
模擬授業に取り組む垂水小学校の教職員

授業イメージがつかみやすい

活発な意見交換

みんなで作りに上げる授業

模擬授業に取り組む垂水小学校の教職員



ファシリテーターを輪番制で全員が経験

小グループで全員が発言

ワークショップ型授業検討会

改善策を日常の授業に生かすチェックシート

共通実践5項目  
 ・「学習のしつけ」  
 ・「学習指導」  
 ・「学習内容」  
 ・「読書指導」  
 ・「家庭学習」

1. 授業の目的・ねらいが明確である。	○	○	○	○	○
2. 学習のねらいが、授業の過程で達成されている。	○	○	○	○	○
3. 学習のねらいが、授業の過程で達成されている。	○	○	○	○	○
4. 学習のねらいが、授業の過程で達成されている。	○	○	○	○	○
5. 学習のねらいが、授業の過程で達成されている。	○	○	○	○	○

成果

- (1) 模擬授業の実施やワークショップ型の授業検討会を導入し、教師自身の授業改善に対する意識や危機感を共有し、授業改善を図っていくとする雰囲気が高まった。
- (2) 「判断基準」や「特別支援教育」などの授業づくりの視点を取り入れたことで、課題を全職員で共有して、授業改善に取り組み、授業力を向上させることができた。

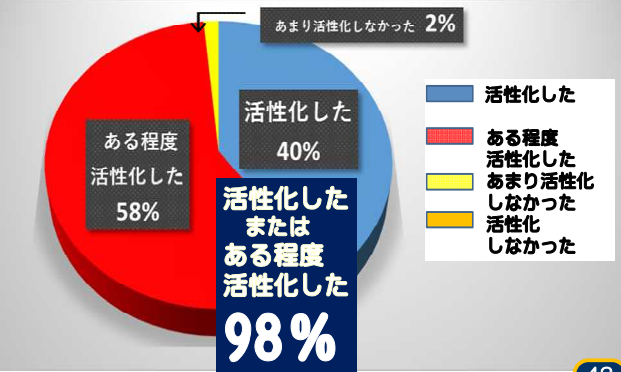
今後の方向

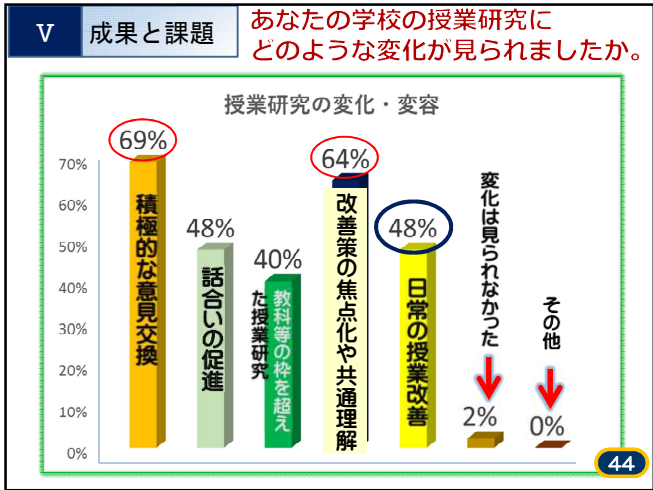
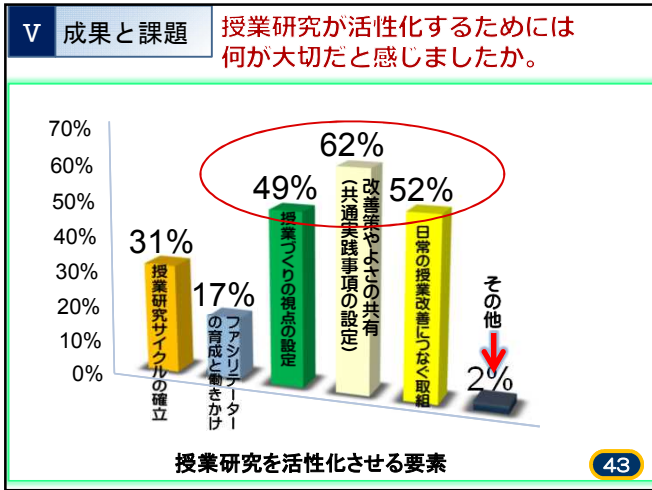
「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善など、次期学習指導要領に対応した視点などを加えながら、垂水小学校の授業研究の充実・改善を通じて、児童の学力向上を図る。

研究の成果と課題

授業研究サポート事業Ⅱ総括アンケートから  
 (実践校6校132人の教職員を対象に実施)

あなたの学校の授業研究は活性化したと思いますか。





- V 成果と課題** 授業研究サポート事業Ⅱに取り組んだ学校の声
- 成果**
- 授業を見る視点が明確化したことで、論点や取組が明確になり、一人一人が意見をぶれずに言うことができるようになった。
  - 全員が自分の授業に生かすことを意識して授業研究に取り組めるようになった。
  - 教科の枠を超えた共通実践事項を設けたことで、学校全体で授業改善を図ることができると実感した。
- 課題**
- 視点を設定することで共有する部分は持てたが、実際に授業改善する取組については、曖昧であった。
  - 改善策を共有し、日常の授業実践後に生徒がどのように変容したかを把握することは難しいが、検証（追跡）をする必要がある。
- 45

**成果パンフレットの活用**

H24 3月

H27 3月

みんなで取り組み、学び合う授業研究

みんなで取り組み、学び合う授業研究

みんなで取り組み、学び合う授業研究

本年3月 刊行予定!!

46